



クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□癖 でまっすん..



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)

『今日は、忍野八海から富士山に登る巡礼ルートの話じゃったな。まずは、おさらいじゃ。寛永寺から届いた書状「申渡制條之事」は覚えているかのう。「毎年、富士登山に際しては、必ず元八湖を巡礼し、朝日浅

間宮(忍草浅間神社)に参詣し、別当東円寺に登山する旨を届けること」とあった。忍野八海を巡って、浅間神社、東円寺に登山の安全を祈願した後、第一のルートは、「江戸屋」という屋号の家の横にある、膳棚橋を通り、中道と呼ばれる道を経由して、旧鎌倉街道を横切ると、そこには茶店があったんじゃ。その茶店が「原の家」なんじゃ。その茶店に大我講の大手引石が建てられてあったんじゃ。』

『茶店「原の家」は、様々な意味で重要な役割を果たしていたでまっすん。これから富士山に登山する人々や、無事富士山から下山した人々の拠り所だったでまっすん。』

『そうじゃったろうな。さて、この道は梨ヶ原を突き抜けると、中の茶屋あたりに向かうルートだったようじゃ。昔の絵図に残されておるんじゃよ。しかし、明治時代、陸軍の演習場になってしまったため、演習場になってからはこの道はなくなってしまったんじゃ。富士登山する人がいなくなってしまうえば、茶屋として商売はできなくなってしまうからのう。そのような背景を考えると「原の家」が現在の場所に移っていることも納得できるじゃろ。』

『演習場ができていなかったら、現在でも登山道は残っていたでまっすん?時代の変化なのだから、登山道がなくなってしまっても仕方がないのかもしれないでまっすん。だけど、とても残念でまっすん。』

『そうじゃな。残念な事じゃ。さて、第二のルートは、忍野八海より平山峠を越えて、富士吉田法務局前を出て、本町通りに向かい、北口浅間神社経由で富士山に登る道が考えられるんじゃ。しかし、忍野八海を巡った人々の多くは、梨ヶ原を経由して登山したと考えることが自然だと思ふんじゃが、このことについても、しっかり調査が必要じゃな。クニマッスンは登山道がなくなってしまったことを残念に思っておるようじゃが、嘆いてばかりでは前進できん。今、我々ができることをしなければいけないんじゃ。』

『講左衛門さん、おいら、しっかり勉強して、忍野八海の事や大我講の事、大寄友右衛門さんの事を皆に伝え続けるでまっすん。』

『しっかり頼むぞ。次回は、忍野八海と言えば竜王様じゃが、陰陽の原理からすると、陰が竜王で陽は鳳凰なんじゃよ。鳳凰は意外なところにいるんじゃよ。その話をしようかのう。』